新刀とは

刀剣の制作年代の分類において、慶長元年(1596)を境に、これ以前の刀剣を古刀、以降を新刀(新々刀を含む)と呼びます。

寛文新刀

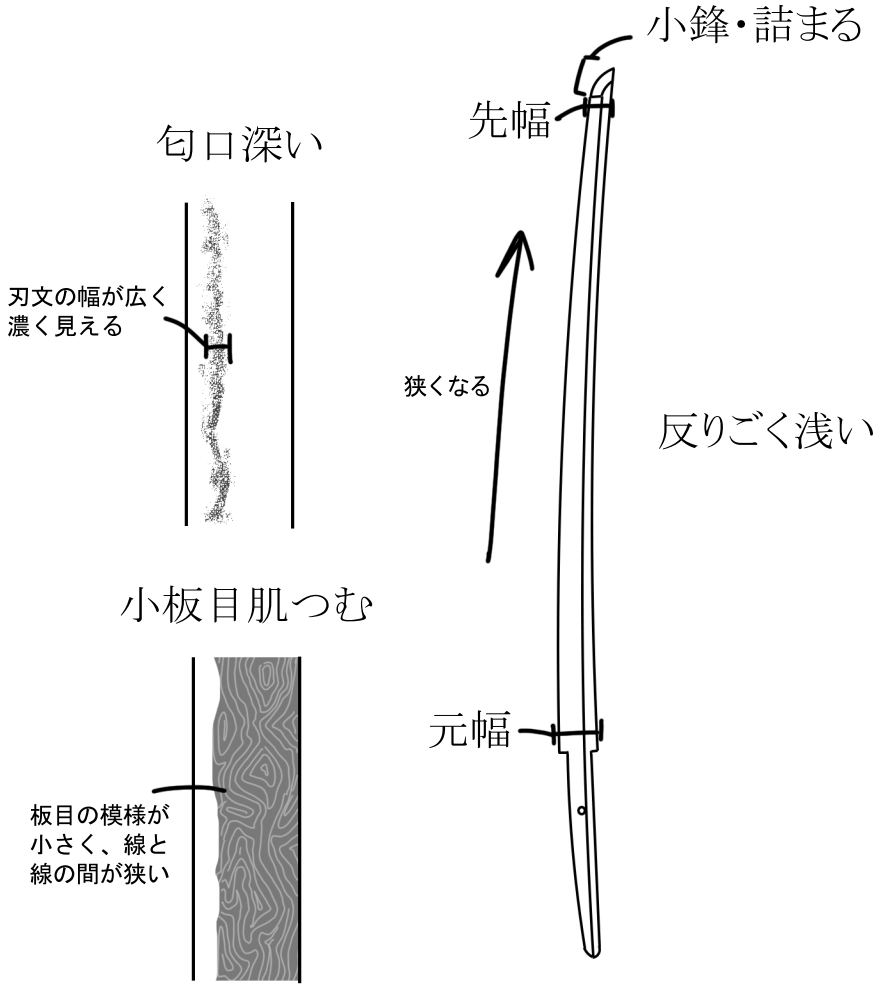
新刀期のなかでも、虎徹と助広が作刀した寛文・延宝年間(1661-1681)の刀を「寛文新刀」といいます。

特徴

姿:元幅よりも先幅が狭まる。反りがごく浅い。
鋒が小さく詰りごころとなる。刃長が2尺2・3寸(約67-70cm)程度のものが多い。

地鉄:小板目のつんだ肌が主流。大坂新刀は特に地鉄が美しいとされる。

刃文:匂口が深く明るく冴える。



変化の要因

- 大きな戦がなくなり、平和な時代が訪れた。
- 政治体制が整えられ、武士とそれ以外の指料の寸法が定められた。
- 「突き」を用いる剣術が流行した。

政治や流行により姿が変化し、役割がより象徴的なものへと変化したことで、美術的要素が発展したのが寛文新刀です。

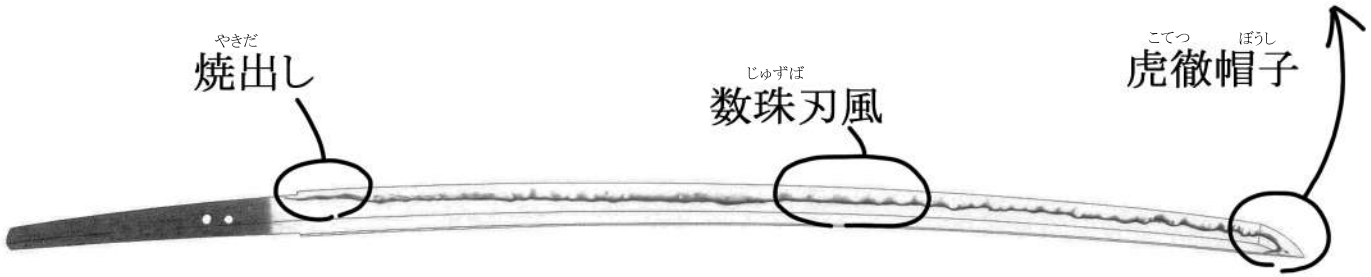
刀剣博物館 The Japanese Sword Museum かんたん見どころ解説

重要文化財

刀 銘 長曽祢虎徹 個人蔵(刀剣博物館寄託)

展示期間2026年11/25(水)-12/20(日)

指表(展示されている面)



●虎徹の特徴的な刃文●

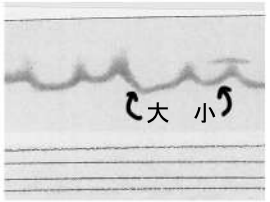
横手



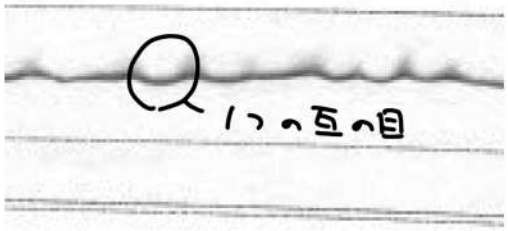
横手上で一度焼込み
先が丸く返る。

瓢箪刃

大小の互の目が並んで
瓢箪のように見える。



数珠刃 頭の揃った互の目が並び、
数珠のように見える。



重要文化財

刀 銘 津田越前守助広 延宝七年二月日 個人蔵(刀剣博物館寄託)

展示期間2026年10/24(土)-11/23(月・祝)

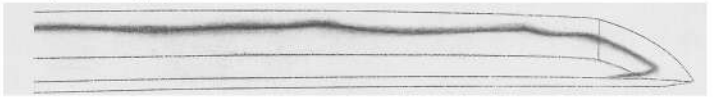
指表(展示されている面)

濤瀾刃 波のように乱れた刃文。
助広が創始した。

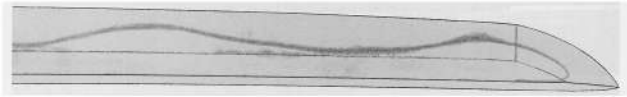


●助広の様々な刃文●

直刃調



大のたれ



飛焼

